

トヨタカネツグループ

Investors Guide 2019

- 事業概要 ▶ 3
- 中期経営計画 ▶ 5
- ビジネスフィールド ▶ 10
- 物流ソリューション事業 ▶ 12
- 機械・プラント事業 ▶ 18
- 海外納入実績 ▶ 24
- 会社情報 ▶ 26

トヨタカネツ株式会社

証券コード：6369

ごあいさつ

「インベスターズガイド2019」をお届けするにあたりまして、ご挨拶申し上げます。

当社グループは「わが社は 常にすすんで よりよきものを造り 社会のために 奉仕する」を社是として、1941年の創立以来培ってきた技術をもとに、物流やエネルギー分野を中心に、最適な製品、システム、サービスを提供することで、お客様のニーズに応えると共に、社会・環境への貢献を果たしてまいりました。

この「インベスターズガイド」は、こうした当社グループが社会で貢献する舞台、ご提供している製品・サービス、事業の取り組み等をご紹介差し上げ、ステークホルダーの皆様が当社グループの事業内容に対してご理解を深めていただければとの思いから、毎年発刊しております。

今年度、トーヨーカネツとトーヨーカネツソリューションズは経営統合を果たし、新生トーヨーカネツとして新たな一歩を踏み出しました。経営資源を集約し、より一層の発展を目指してまいります。

また、今年度は、新たに策定致しましたグループ中期経営計画（2019～2021年度）の初年度となります。

本計画期間に次なる飛躍に向けた基盤を固め、業績目標の達成と

グループの更なる成長を図り、“Challenge & Change”の

スローガンの下、持続的な企業価値向上に努めてまいります。

トーヨーカネツグループは、これからも社是の精神に基づき、物流・エネルギー分野のソリューションイノベーターを目指して飽くなき挑戦を続けてまいります。

皆様の一層のご理解とご支援を賜りますよう、よろしくお願ひ申し上げます。

代表取締役社長
柳川 徹



事業概要

トーヨーカネツの歩み

私たちは、東洋火熱工業株式会社として1941年に創業、工業窯炉の製造・販売から機械・プラント事業をスタートさせました。

その後、戦後復興期の1950年にはリベット式タンクに代わる全溶接タンクを日本で初めて製造・販売。さらに、高度経済成長期にいち早く海外進出を果たし、中東やアジアで数多くのタンクを製造いたしました。クリーンエネルギーとして注目されているLNG（液化天然ガス）貯蔵にも取り組み、1969年には、極低温貯蔵タンクを製造。これにより、常温から極低温貯蔵のタンクまでを製造できるメーカーへと成長を遂げています。

また、機械を用いた自動溶接にも早くから取り組み、インドネシア・バタム島に生産拠点を持つなど、高品質ながらコストを抑えたタンク製造を実現しています。現在までに国内外で製造したタンクは5,700基、海外での製造数は業界No.1です。LNGタンクのシェアでも国内No.2です。

一方、1955年に製造・販売をスタートした物流ソリューション事業は、荷物・ユーザー・運用者に優しい製品が好評を博し、事業を急拡大させました。1971年に福岡空港に提供した手荷物搬送システムは、現在、国内65カ所、世界17カ国の空港に納入され、国内シェアは8割を超えます。1981年に日本で初めて開発・販売したデジタルピッキングシステムは、生協業界を支え続け、現在も同業界で高いシェアを維持しています。

お客様のビジネスを徹底して学び、理解し、「製品ではなく機能を売る」をスタンスに、お客様の事業のビジョンから各物流拠点での運用ノウハウまでを把握しながら、変化の速いビジネス環境への対応を一緒に模索、数々のイノベーションを実現しています。

創業以来培ってきたチャレンジ精神によって、これからも私たちは進化し続けます。

物流ソリューション事業では、IoT技術・AIを活用した予知保全サービス、ロボットを活用した物流現場の省人化・省力化に貢献できるソリューションや製品開発に日々取り組んでいます。

機械・プラント事業のコアとなる溶接技術は、自動溶接から遠隔自動溶接へと進化。現場から離れた事務所からでも、遠隔操作で質の高い工事を24時間進める—そんな未来を実現させようとしています。さらに、本格的な水素社会の到来を先取りし、大型水素貯蔵タンクの開発に目処をつけています。

当社のミッションは不変です。たとえ社会が変化しても。当社は、これからもインフラを支え続け、それによって社会に貢献していきます。



■事業概要

トーヨーカネツ(株)(代表取締役社長 柳川徹)は、1941年5月に東洋火熱工業(株)として創業、工業窯炉の製造・販売を開始いたしました。現在は、物流ソリューション事業及び機械・プラント事業を中心に事業展開しております。

物流ソリューション事業

売上高 292.7億円
営業利益 19.0億円

仕分け、ピッキング及び搬送システムを中心とした物流システムの開発・設計・施工や、これら各種システムのメンテナンス業務等



機械・プラント事業

売上高 84.2億円
営業利益 △12.2億円

LNG、LPG、原油、その他気体・液体用の貯蔵タンク的设计・製作・施工や、これら各種タンクのメンテナンス業務等



その他事業

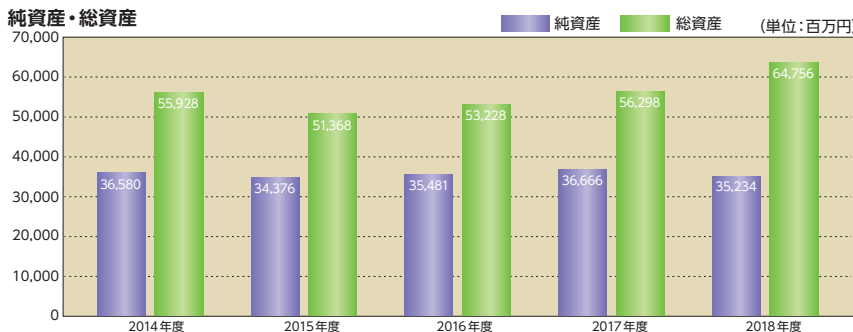
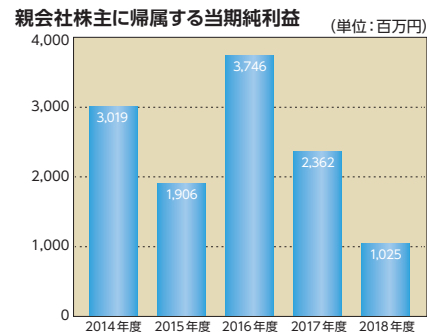
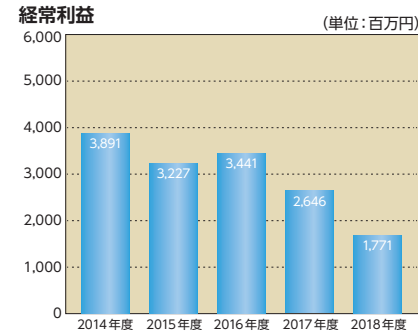
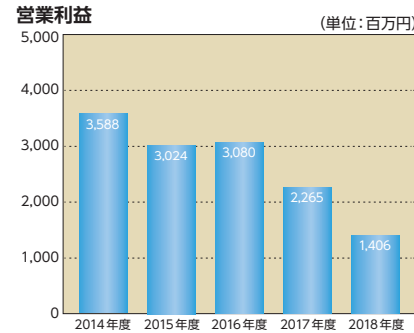
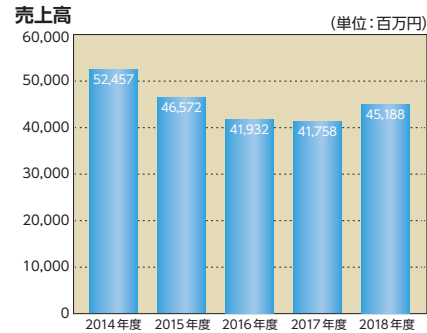
売上高 82.3億円
営業利益 11.0億円

福祉施設や賃貸住宅などの建築請負、産業用設備機器の製造・販売、環境調査、不動産の賃貸・管理等



※売上高については、セグメント間の内部売上高又は振替高を含んでおります。

■連結財務ハイライト



■中期経営計画

当社グループは2019年4月からスタートするグループ中期経営計画(2019~2021年度)を策定し、本計画期間の3カ年を、長期ビジョンの実現のための飛躍に向けた基盤確立の時期として位置付けております。

■事業戦略

物流ソリューション事業

基本方針
収益性向上

戦略

- 戦略①プロジェクト管理・遂行能力の向上による競争力の強化
- 戦略②オープンイノベーションによるオンリーワン・ソリューションの提供
- 戦略③AI、IoT技術を活用したメンテナンス事業の拡充
- 戦略④東南アジアにおける海外展開の加速

機械・プラント事業

基本方針
事業再構築

戦略

- 戦略①安定収益源の確保による受注変動に強い事業体質の確立
- 戦略②技術力向上による受注力の強化

その他事業

基本方針
選択と集中

戦略

- 戦略①成長分野への積極的なリソース投入による事業収益の拡大
- 戦略②事業体制の整備・安定化

新規事業

基本方針
早期収益化

戦略

- 戦略①既存事業の領域拡大とグループ収益への貢献を実現するM&Aの推進
- 戦略②ベンチャー企業とのアライアンスによるオープンイノベーションの実現

経営基盤強化策

基本方針

社員一人ひとりが生き生きとして変革と成果を実現する企業風土を創り上げるとともにグループとしてのガバナンスを一層強化する

施策

- 施策①変革と事業成果の継続的な創出を実現する企業風土への改革
- 施策②グループ組織運営の強化
- 施策③ESG視点に立った企業価値の向上とガバナンス体制の一層強化

■事業戦略の取り組みの一例

■物流ソリューション事業

●人手不足を解決するソリューション「フルラインGP3」

ネット通販市場の拡大やライフスタイルの変化に伴う物流サービスの多様化により、宅配等の物量は急増する一方で物流業界では「人手不足」の深刻さが増し、これを解決するソリューションが求められています。当社は、人手不足を解決するソリューション「フルラインGP3」を新たに開発いたしました。「フルラインGP3」は「GTP：歩行レスピッキング」の進化版でパッキングも同時に行えるソリューション「GP3」をさらに進化させたソリューションです。

当社が得意とする高頻度商品のピッキング・出荷ソリューションに、ロングテール商品*の保管・ピッキングにも最適な「Auto Store」を組み合わせ、全商品の自動化、省人化を実現します。例えば、人手だと400人必要だった作業も50人で対応可能となります。

当社は革新的なソリューションの開発を続けることで、物流業界が抱える「人手不足」と「生産性向上」という大きな問題を解決し、物流分野のソリューションイノベーターを目指します。



*ロングテール商品…出荷頻度の低い商品

■機械・プラント事業

●海外子会社のプロフィットセンターへの変革

当社は、1978年にシンガポールの南20km程に位置する Batam 島に、トーヨーカネツインドネシア社 (TKI) の Batam 工場を設立いたしました。以来、Batam 工場はその好立地を活かしながら、機械・プラント事業発展の要として、各種タンク部材の製造実績を重ねてまいりましたが、近年は、事業環境変化に柔軟に対応するべく、生産体制だけでなく営業体制の強化にも積極的に取り組んでおります。

生産面では、タンクメーカーとしての高い技術力を活かし、海洋構造物用資材などタンク部材以外の鉄鋼製品加工に着手し、より広範なお客様ニーズに対応できる体制を整えました。営業面では、ジャカルタオフィスの人員増強をはじめとした営業組織の再編成を行なったことにより、インドネシアにおけるタイムリーな営業活動が可能となり、現地で主体的に受注を獲得しております。

今後も、豊富な実績と顧客ネットワークを活かし、タンクと並行し鉄鋼製品加工の受注力も強化することによって、高品質ファブリケーターとしてのブランド確立を図るとともに、TKIのプロフィットセンター化を目指してまいります。



■事業戦略の取り組みの一例

■その他事業

●トーヨーコーケンが新製品「^{のりめん}法面ウォーカー」を発売

当社グループのトーヨーコーケン株式会社は、1957年の創業以来、ウインチ、バランス等を取り扱う産業機器メーカーとして、建設現場の安全対策や省力化に資する製品で、建設現場や工場等で働く人々を支えてまいりました。

トーヨーコーケンは2019年、^{のりめん}（山肌等の急斜面）での建設作業をサポートする新製品「法面ウォーカー」を発売いたします。本製品は、ブレーキ内蔵のウインチを用いた動力装置と、墜落防止装置（キーパー）を組み合わせた機器が昇降を補助し、作業負荷の軽減と安全性の向上に貢献します。長年にわたって豊富な納入実績を持つ、ウインチ、キーパーという既存製品を組み合わせることで、法面作業補助に特化した業界初の製品となりました。

今後、国内での防災対策や老朽化対策が急がれるなか、当製品が活躍する場が増えることが期待されます。本製品の市場開拓、販路拡大に努めるとともに、これからも建設現場で働く人々を力強くサポートしてまいります。



■新規事業

●オープンイノベーションの推進

当社は、コーポレート・ベンチャーキャピタル (CVC) を設立し、2017年より運用を開始しております。現在、ファンド総額は10億円となり、革新的な技術や収益モデルとして魅力ある事業アイデアを有する国内外の有望なベンチャー企業へ投資を進めております。引き続き有望なベンチャー企業と協業することでオープンイノベーションを推進し、新たな事業創出を実現してまいります。



■経営基盤強化策の取り組みの一例

●統合報告書を刊行いたします

トーヨーカネツグループでは、ESG/CSRの視点を経営に取り入れることを目指しております。そのような方針の足掛かりとして、株主様をはじめとしたステークホルダーの皆様へ、当社のESG/CSRの取り組みをご理解いただくことを目的とした統合報告書を2019年秋頃に刊行いたします。

昨年度より、全社的な統合報告書刊行プロジェクトチームを立ち上げ、経営層のディスカッションを実施するなどして社会と当社との関わりや、持続的発展についての議論を重ね、当社のマテリアリティ(重要課題)を策定いたしました。また、第三者機関からのヒアリングや、社内研修会の開催などにも力を入れ、ESG/CSR活動の推進を図っております。

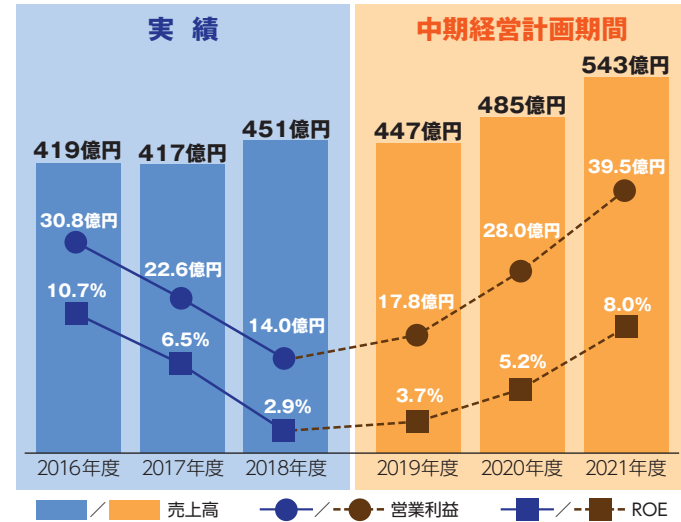
今後も、ステークホルダーの皆様への積極的な情報発信に努めるとともに、事業活動を通じ、社会課題を解決できる企業であり続けたいと考えております。



経営層によるディスカッションの様子

■連結売上高・営業利益のセグメント別目標

2021年度 連結業績目標
 売上高 **543** 億円
 営業利益 **39.5** 億円
 ROE **8.0** %



(単位:百万円)

	2019年度	2020年度	2021年度
売上高	44,700	48,500	54,300
物流ソリューション事業	27,000	27,500	28,000
機械・プラント事業	10,300	13,000	15,500
その他事業	7,600	8,200	8,500
新規事業	-	-	2,500
営業利益	1,780	2,800	3,950
物流ソリューション事業	2,200	2,500	3,000
機械・プラント事業	△650	0	300
その他事業	980	1,000	1,100
新規事業	-	-	250
ROE	3.7%	5.2%	8.0%

(注) 上表における各事業の売上高・営業利益の目標数値はセグメント間の内部売上高及び振替高の調整額が含まれておりません。

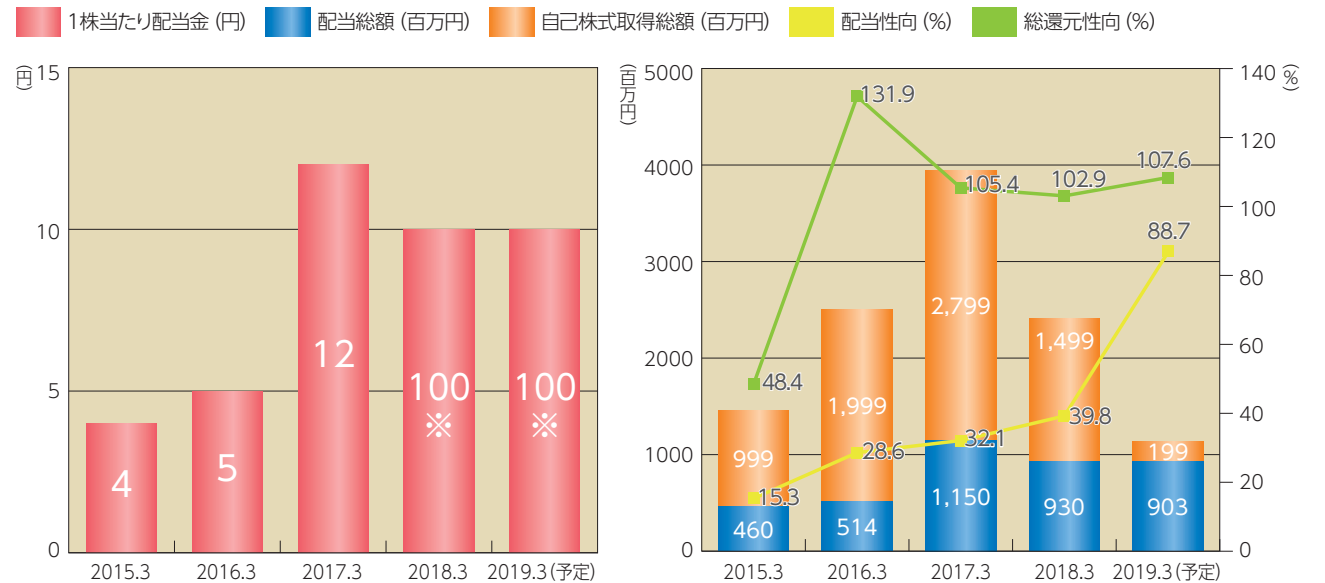
■資本政策の基本方針及び株主還元方針

2019年5月14日開催の取締役会において、資本政策の基本方針と株主還元方針の改定を決議いたしました。
 新たなグループ中期経営計画では、「グループ各事業の総力を以って収益力を向上させながら、飛躍に向けた基盤を確立する」ことを基本方針といたします。この推進のため、資本の最適配分として借入の有効活用は継続するものの、獲得した利益のうち一定程度を企業価値増大のための投資や設備投資に充当し、かつ自己株式の取得は機動的に実行することといたします。一方、配当性向は50%以上に引き上げ、株主の皆様への直接的な還元を重視してまいります。株主還元方針につきましては下表もあわせてご覧ください。

	改定前	改定後
① 連結配当性向	30%以上と設定いたします。 (但し、1株当たり年間100円配当を下限とする。)	50%以上と設定いたします。 (但し、1株当たり年間100円配当を下限とする。)
② 連結総還元性向	100%以上と設定し、①のほか、自己株式取得を機動的に実施いたします。 (但し、大規模な資金需要が発生した場合にはこの限りではない。)	連結総還元性向は設定せず、業績動向などにより機動的に対応することといたします。

本株主還元方針の適用期間は、グループ中期経営計画の計画期間(2020年3月期～2022年3月期)の3期とし、当該期間の終了時点で見直すことといたします。

■配当・自己株式取得の推移



※2017年10月1日を効力発生日として株式併合(普通株式10株を1株に併合)を実施いたしました。

2018年3月期以降の1株当たり配当金につきましては、株式併合を考慮した金額を記載しております。

※2017年3月期は1株当たり2円の記念配当を実施いたしました。

■株価の推移

	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度
最高(円)	278	272	358	422 (4,775)	4,100
最低(円)	226	186	185	258 (2,985)	1,994
期末終値(円)	228	246	295	(3,065)	2,004

※2017年10月1日を効力発生日として株式併合(普通株式10株を1株に併合)を実施いたしました。

2017年度の株価につきましては、株式併合前及び株式併合後の株価を記載し、()内に当該株式併合後の最高・最低株価並びに期末終値の株価を記載しております。

当社グループの製品が活躍する舞台

物流ソリューション

- 卸・小売・3PL
- ネット通販
- 郵便
- 空港
- 生協

☞ 詳細は12頁~17頁を参照

機械・プラント

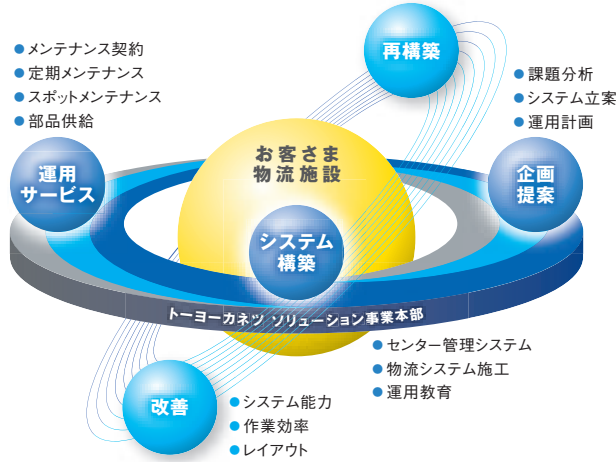
- LNG 液化基地
- 原油輸出基地
- 石油備蓄基地
- 発電所
- ガス会社
- LNG 受入基地
- 製油所

☞ 詳細は18頁~23頁を参照

その他

- 産業用機器
- 環境調査・分析
- 建築

物流ソリューション事業のビジネスプロセス



ロジスティクスにチカラを

お客様の物流環境の変化に対応し、
私たちは最適な物流システムの構築と
維持・改善を提供します。

総合エンジニアリングサービス

トヨーカネットソリューション事業本部は、物流センター構築のプロジェクトを3つのフェーズに分け、お客様の理解を深めお客様の視点に立ってプロジェクトを推進いたします。

① コンサルティング

お客様の課題と解決策を徹底的に検討



- フィジビリティスタディ
- コンセプトの提案
- マスタープラン作成

② エンジニアリング

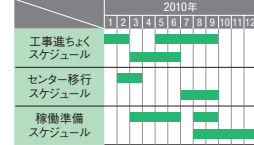
最新の技術とノウハウを結集した物流センターを構築



- 設計 (運用システム・レイアウト)
- 製造
- 施工

③ センター立ち上げ

スムーズなセンター立ち上げをサポート



- 試運転調整
- 操作教育
- 移行計画策定

オペレーションサポートサービス

トヨーカネットソリューション事業本部は、センターの立ち上げ後もお客様の運用を3つのフェーズに渡ってシームレスに支援してまいります。

④ センター運用サポート

能力を最大限に活かす運用確立



- 運用指導教育
- 設備習熟教育
- 日常点検／障害対処教育

⑤ メンテナンス

低コストで長期安定稼働を実現



- 365日24時間サービス体制
- 定期メンテナンス
- スポットメンテナンス

⑥ 改善提案

物流環境の変化に対応した最適な提案



- センター内の生産性改善
- 物流サービスレベルの向上
- リニューアルコンサルティング

製品一覧



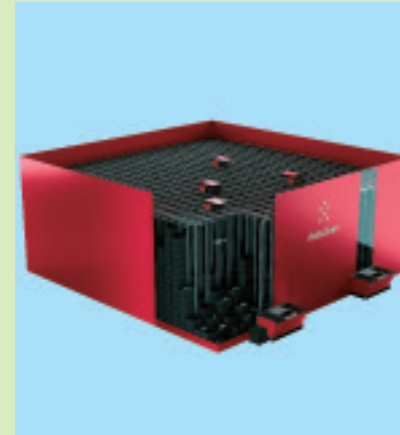
SPD (スーパーピックディレクター)
各ゾーンでのピッキング頻度のばらつきが少なく、高頻度で比較的少ないアイテムを限定対象にした集品形態に適しています。



ニューボジソータ
不定形品・長尺物など多様な荷姿に対応しながら、超高速で大量仕分けを可能にします。さらに磁力分岐により低騒音も実現しています。



マルチシャトル
高い入出庫能力と省スペースを実現する新しいコンセプトのケース自動保管システム。ピッキング、仕分け、補充、保管の4大機能を活かし、お客様の目的に応じた仕組みを構築可能です。



AutoStore
ロングテール商品の保管・ピッキングに最適な製品です。高密度保管を実現し、建屋の形状にとわらわることなく設置スペースに合わせたレイアウト構築が可能で柔軟性に優れた保管システムです。



カートピッキング
中頻度～低頻度の多品種アイテムに対するペーパーレスでピッキングミスの無いローコストなピッキングシステムです。

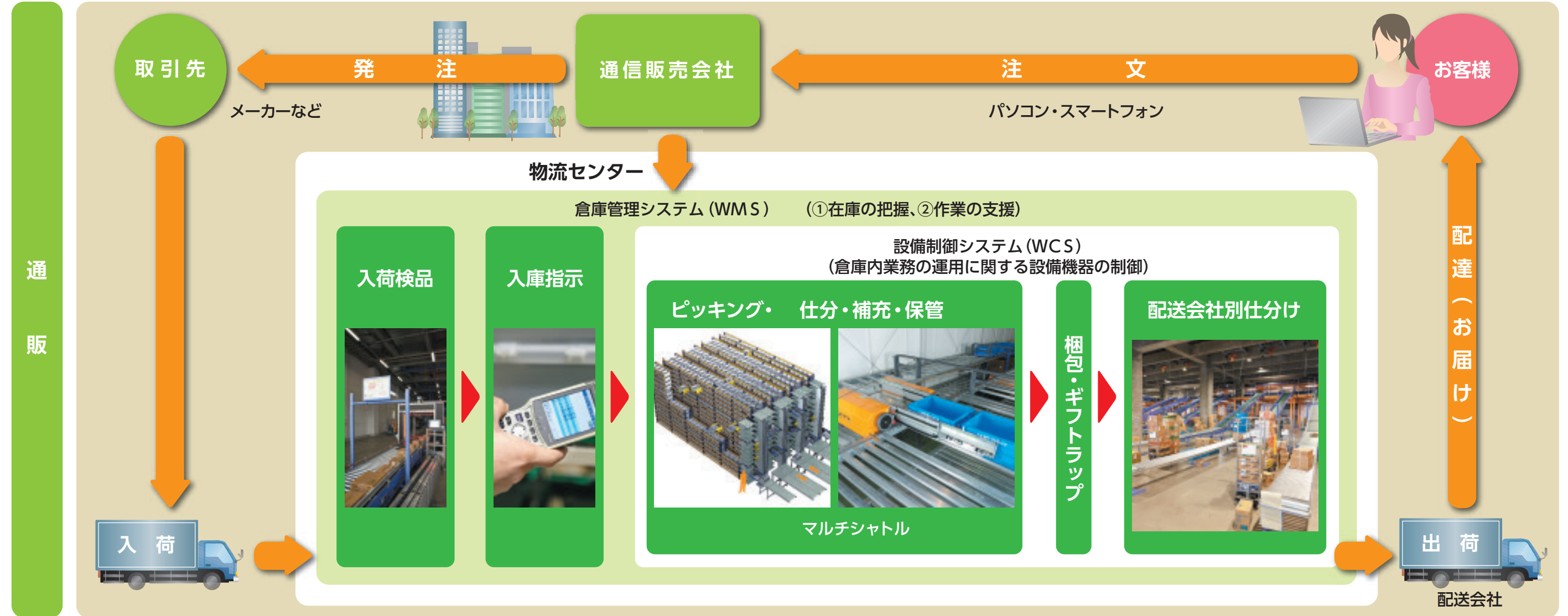


ロジボ® MPR-0002
サイズや重量が異なる段ボールケースを効率よくカゴ車やカートラックに混載積み付け可能なロボットです。

ネット通販時代のニーズに応える高速出荷を実現

拡大を続けるインターネット通販市場において、更なる物流機能の高度化・合理化に応えるため、最先端技術の導入・開などで、ネット通販ご利用者様の元に素早く商品をお届けできるためのソリューションを提供しております。

発を通じて、当日配送を可能とする正確・迅速な出荷と、かつ省スペースを実現する保管システム(マルチシャトル)

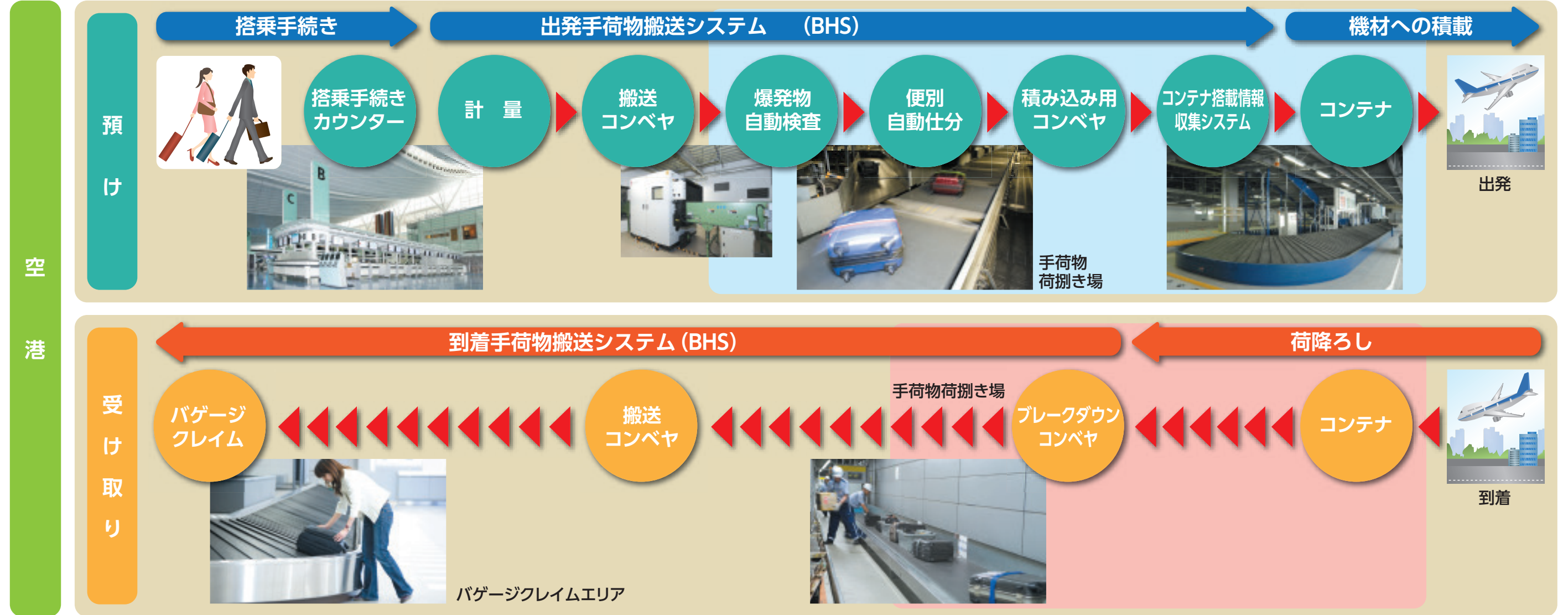


手荷物、旅客、運用者に優しい空港手荷物搬送システム

お客さまの手荷物を確実に搭乗便に運ぶ空港手荷物搬送システムを1971年より提供しております。365日休みなく稼働する国内では羽田空港、成田国際空港、中部国際空港などをはじめ65空港に納入、約8割のシェアを確保しております。

で空の玄関を支える

る空港においては、遅延、誤送が許されません。その厳しい要求に応える高度な機能と高い品質で、現在までに世界17カ国、



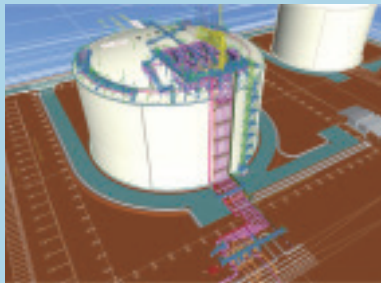
機械・プラント事業のビジネスプロセス

全てはエネルギーの 未来のために

エネルギー資源の効率的な備蓄を目指して、当社は、タンク及び付帯設備の設計、調達、建設（EPC）の各フェーズで高いプロジェクト遂行力を発揮し、メンテナンスも含めて、社会を動かすエネルギー資源を支え続けています。

タンク新設

Engineering — 設計 —



安全性、経済性などを考慮しながら、お客様のニーズや規格に適合した、タンク、配管、電気計装など付帯設備を含めた設計を行っています。

Procurement — 調達 —



世界各国から必要な資材、機器を購入、的確な生産管理に基づき、インドネシア・バタム工場での加工を経て、建設現場へタイムリーな輸送を実現します。

Construction — 建設 —



様々なリソースを最適化して工期を遵守しながら、高度な溶接技術や徹底した品質管理の下、協働する専門業者と共に安全第一に工事を遂行します。

メンテナンス

主な業務内容

- 各種タンク開放・補修・改造工事
- 旧消防法タンク安全性評価
- 浮き屋根式タンク耐震性評価

「安全性」「経済性」「品質の向上」を追求し、改修計画の立案から清掃・検査・補修に至るまで、一貫したトータルサービスを展開しています。



製品一覧

■低温貯槽



PC/RC 外槽二重殻平底円筒形タンク
プレストレストコンクリート製外槽及び金属製内槽の二重構造になっており、液化天然ガス（LNG）、液化石油ガス（LPG）、エチレン等の貯蔵に適しています。



金属二重殻平底円筒形タンク
内槽に加えて外槽にも金属を使用した二重構造となっています。液化天然ガス（LNG）、液化石油ガス（LPG）、エチレン等の貯蔵に適しています。



常圧断熱式縦置円筒形タンク
金属製外槽及び金属製内槽の二重構造になっており、液化天然ガス（LNG）、液化窒素（LN2）等の貯蔵に適し、高い運転圧力の設計が可能であるため運転管理が容易となります。

■常温高圧貯槽



球形タンク

常温 / 高圧状態で内容物を液化させて貯蔵する球形タンクです。プロパン、ブタン等の貯蔵に適しています。都市ガスのようにガス状態で貯蔵するものもあります。

■常温常圧貯槽



フローティングルーフタンク

浮屋根が油に直接浮かんでおり、揮発損失が少ない構造となっています。揮発性の高い原油、ガソリン、ナフサ等の貯蔵に適しています。



コーンルーフタンク

円錐型の屋根があるため、水の混入が防止できる構造となっています。揮発性の低い重油、軽油、灯油等の貯蔵に適しています。



ドームルーフタンク

ドーム型の屋根を持ち、球面屋根であるため内圧に強い構造となっています。揮発性の低い油の貯蔵や低圧ガスシールを行う場合に適しています。

LNGバリューチェーンを支えるタンクを世界に

環境負荷の少ないエネルギーの一つとして注目される液化天然ガス LNG。当社は1969年ブルネイ・ダルサラーム国で23万m³という大型LNGタンクを建設するなど、先進技術を駆使したLNGタンクの建設に取り組んでまいりました。

建設したLNGタンクを皮切りに、半世紀近くに亘って国内外で100基以上のLNGタンク建設に携わり、世界最大級

輸 出 国



液化プラント (イメージ)



天然ガス田

液化プラント



LPGタンク



LNGタンク



LNG タンカー

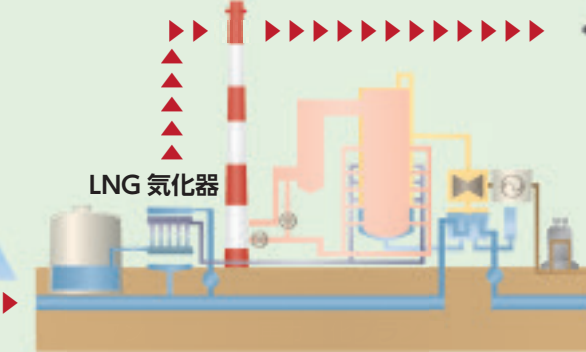
～ LNG の輸出国で～

ガス田や原油採掘に伴って発生した随伴ガスを、液化プラントで硫化水素等不純物を取り除いた後、零下162度まで冷却することで液化し、その体積を600分の1まで凝縮することで貯蔵・運搬を容易なものにしています。当社ではこの液化プラント内で生産されたLNG及び、精製プロセスを経て生産されるプロパン、ブタンなどを貯蔵するためのタンク、その他付属の小型タンクなどを提供しております。現在LNGは世界約20カ国で生産されており、採掘技術の向上によるシェールガス等の非在来型ガス田開発などに伴い、今後更に生産拡大が見込まれています。

輸 入 国



再ガス化プラント (イメージ)

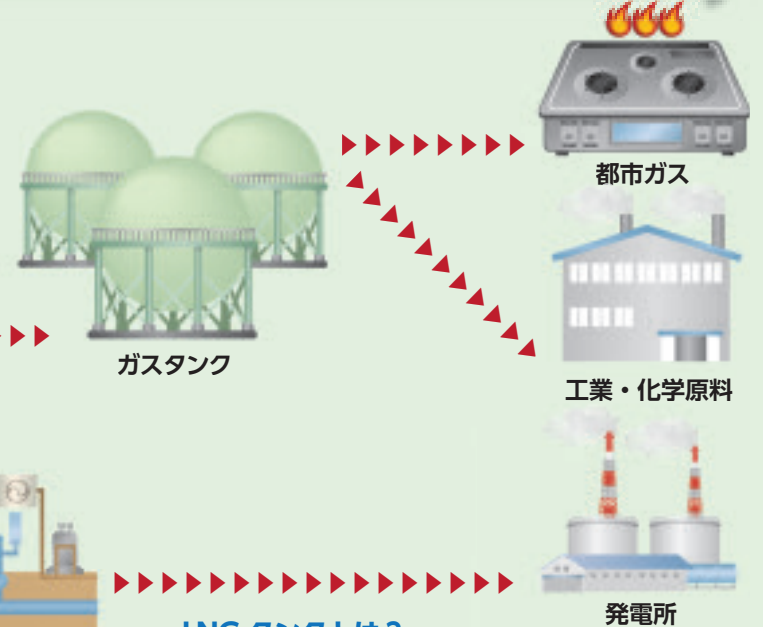


LNG気化器

ガスタンク

～ LNG の輸入国で～

生産国から輸出されたLNGは、極低温に保たれたままLNGタンカーで輸送され、日本をはじめとしてアジアを中心に、世界約40カ国へ届けられます。受入基地に運搬されたLNGはタンクに貯蔵され、再ガス化プラントで液体からガスに気化され、液化石油ガス(LPG)を添加して熱量調整が行われた後、発電設備や都市ガスパイプラインなどに送られます。当社は、このバリューチェーンにおいて受入基地でのLNGタンク、熱量調整用のLPGタンクや、その他付属の小型タンク、都市ガス貯蔵用の球形タンクなどを提供しております。



都市ガス

工業・化学原料

発電所

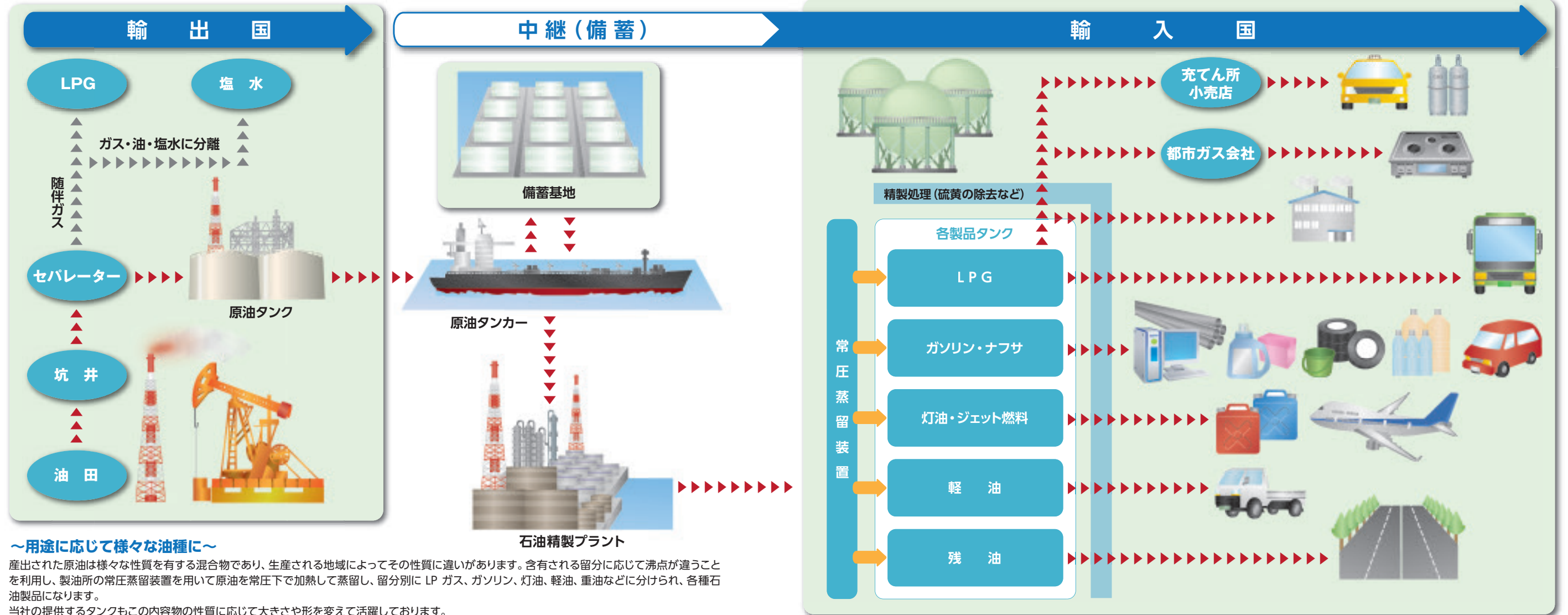
～ LNG タンクとは?～

零下162度に冷却された液化天然ガスを貯蔵するため魔法瓶のような構造になっています。高い安全性や大容量化が可能なことからPCLNGタンクが主流となっており、建設国における法令や規格によって構造は若干異なるものの、安全性を高めるため外層はプレストレストコンクリートを配置し、万一漏洩した場合でもタンク内部にLNGが貯留できるようにしています。このコンクリート壁の内側は外槽と内槽の二重構造となっており、内槽は極低温状態においても強度を発揮するレアメタルを含有する9%ニッケル鋼が用いられ、高度な技術で底板、側板、屋根板が溶接されています。また内外槽間は外気温の影響による気化を抑制するための保冷材で満たされています。輸送量の増加に伴い近年大型化しており、23万m³にもなると、高さは約60メートル、20階建てタワーマンションと同じくらいの高さになります。

原油から形を変えて活躍する石油製品を貯蔵

創業以来培ってきた溶接技術を元に、1950年に国内において石油精製が再開されるのに合わせ全溶接タンクの製造を応じて各種タンクを納入し、メンテナンスを含めたトータルサポート体制で世界中の原油・石油製品貯蔵に貢献してまい

開始、我が国初のAPI(米国石油協会)認定工場となるなどタンク建設のリーディングプレイヤーとして国内外で油種に



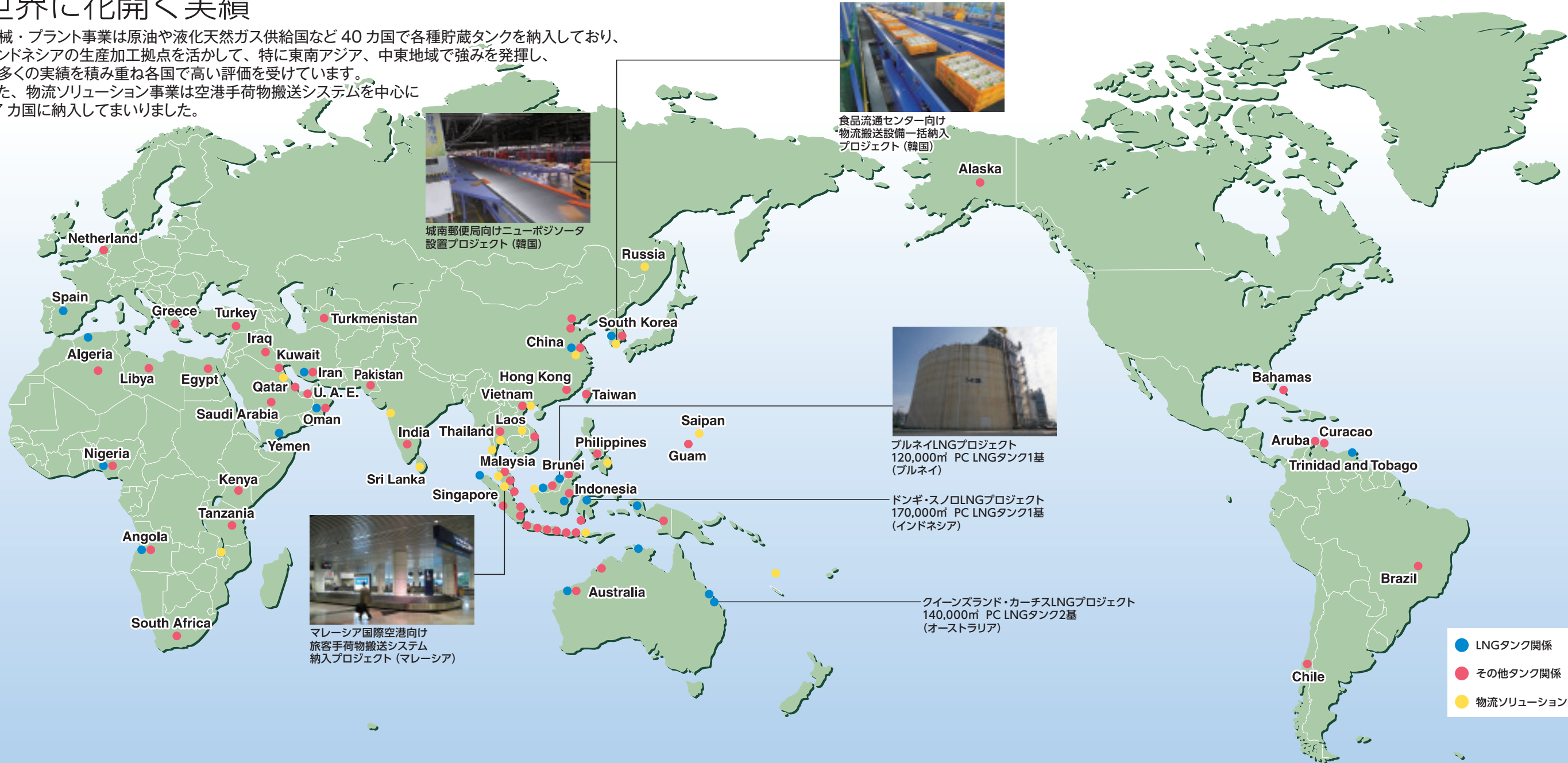
～用途に応じて様々な油種に～

産出された原油は様々な性質を有する混合物であり、生産される地域によってその性質に違いがあります。含有される留分に応じて沸点が異なることを利用し、製油所の常圧蒸留装置を用いて原油を常圧下で加熱して蒸留し、留分別にLPガス、ガソリン、灯油、軽油、重油などに分けられ、各種石油製品になります。

当社の提供するタンクもこの内容物の性質に応じて大きさや形を変えて活躍しております。

世界に花開く実績

機械・プラント事業は原油や液化天然ガス供給国など40カ国で各種貯蔵タンクを納入しており、インドネシアの生産加工拠点を活かして、特に東南アジア、中東地域で強みを発揮し、数多くの実績を積み重ね各国で高い評価を受けています。また、物流ソリューション事業は空港手荷物搬送システムを中心に17カ国に納入してまいりました。



トーヨーカネツのグローバルネットワーク



国内事業所

- 本社
- サービスセンター
- 千葉事業所
- 和歌山工場
- 札幌・仙台・埼玉
- 東京・横浜・名古屋
- 大阪・岡山・九州

主な連結子会社(国内)

- トーヨーコーケン株式会社
- トーヨーカネツビルテック株式会社
- 株式会社トーヨーサービスシステム
- 環境リサーチ株式会社



連結子会社(海外)

- トーヨーカネツインドネシア社 (インドネシア)
- トーヨーカネツマレーシア社 (マレーシア)
- トーヨーカネツシンガポール社 (シンガポール)

会社情報

(2019年3月31日現在)

会社概要

商号	トーヨーカネツ株式会社 TOYO KANETSU K.K.
代表取締役社長	柳川 徹
創立	1941年(昭和16年)5月16日
所在地	東京都江東区南砂二丁目11番1号
資本金	185億80百万円
発行済株式総数	9,323,074株
1単元の株式数	100株
従業員数	996名(連結)
証券コード	6369

大株主

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
株式会社りそな銀行	439	4.85
株式会社レオパレス21	423	4.68
日本生命保険相互会社	414	4.58
日本スタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	394	4.36
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	258	2.85
UBS AG LONDON A/C IPB SEGREGATED CLIENT ACCOUNT	233	2.58
NORTHERN TRUST CO.(AVFC) RE IEDU UCITS CLIENTS NON LENDING 15 PCT TREATY ACCOUNT	225	2.49
大栄不動産株式会社	212	2.35
野村信託銀行株式会社(投信口)	175	1.94
GOVERNMENT OF NORWAY	163	1.80

※上記のほか、自己株式を283千株保有しております。
 ※上記の持株比率は、自己株式を控除して計算しております。

沿革

- 1941年 東洋火熱工業(株)創立
工業窯炉の製造、販売を開始
- 1950年 全溶接タンクの製造を開始
- 1955年 横浜コンベヤ工場開設
- 1969年 商号をトーヨーカネツ(株)に変更
- 1970年 東京証券取引所市場第一部銘柄となる
- 1971年 敷地6万坪の千葉工場を木更津市に竣工
- 1974年 トーヨーカネツインドネシア社設立
- 1978年 トーヨーカネツインドネシア社に於いてバタム工場を開設
- 1981年 デジタルピッキングシステムを日本で最初に開発・販売
- 1994年 国内タンクメーカー初のISO9001認証取得
- 1999年 物流システム事業においてもISO9001認証取得
- 2000年 「アスクルのロジスティクス進化論」でロジスティクス大賞受賞
- 2002年 物流システム事業をトーヨーカネツソリューションズ(株)とし分社
- 2006年 トーヨーカネツソリューションズ(株)に於いてISO14001認証取得
- 2008年 トーヨーカネツインドネシア社に於いて電気事業法民間製品認証登録溶接施工工場の認証を取得
- 2012年 ISO14001認証取得
- 2014年 トーヨーカネツビルテック(株)を設立し建築事業を統合
- 2015年 液体水素タンク建設を目指し東京工業大学と共同研究開発
- 2016年 創立75周年を機に本社を江東区南砂に移転
- 2019年 トーヨーカネツソリューションズ(株)と合併

株主メモ

事業年度	4月1日～翌年3月31日
配当金受領 株主確定日	〔 期末配当金 3月31日 〕 〔 中間配当金 9月30日 〕
定時株主総会	毎年6月
株主名簿管理人・ 特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同 連 絡 先	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 東京都府中市日鋼町1-1 TEL 0120-232-711 (通話料無料) 郵送先 〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
上場証券取引所	東京証券取引所
公告の方法	電子公告により行います。ただし、やむを得ない事由により電子公告をすることが出来ない場合は、日本経済新聞に掲載いたします。 公告掲載URL https://www.toyokanetsu.co.jp/

(ご注意)

1. 株主様の住所変更、単元未満株式の買取請求その他各種手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱い出来ませんのでご注意ください。
2. 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、左記特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にてもお取次ぎいたします。
3. 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

(ご案内)

株式に関するマイナンバー制度のお手続きについて

市区町村から通知されたマイナンバーは、株式の税務関係のお手続きで必要となります。このため、株主様から、お取引の証券会社等へマイナンバーをお届しいただく必要がございます。

【株式関係業務におけるマイナンバーの利用】

法令に定められたとおり、支払調書に株主様のマイナンバーを記載し、税務署へ提出いたします。

【主な支払調書】

*配当金に関する支払調書

*単元未満株式の買取請求等株式の譲渡取引に関する支払調書

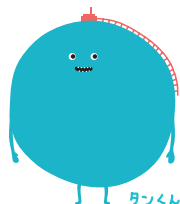
【マイナンバーのお届出に関するお問合せ先】

証券会社の口座にて株式を管理されている株主様

お取引の証券会社までお問合せください。

証券会社とのお取引がない株主様

三菱UFJ信託銀行 証券代行部までお問合せください。



TOYO KANETSU GROUP



トヨカネツ株式会社

本社 〒136-8666 東京都江東区南砂二丁目11番1号
TEL.03(5857)3333(代表) FAX.03(5857)3170



見やすく読みまちがえにくい
ユニバーサルデザインフォント
を採用しています。

